平成28年度　専門学校山梨県立農業大学校　評価シート

重点目標：就農に向けた幅広い人材の確保と育成
　　就農希望者に対する円滑な就農・定着の推進

評価基準(達成度)		
4	適切	評価指標の8割以上達成
3	ほぼ適切	評価指標の6割以上達成
2	やや不適切	評価指標の5割以上達成
1	不適切	評価指標の達成5割未満

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	
1	専門学校として幅広い人材の確保	将来の農業の担い手育成に向け、農業を志す高校生等に対して農業大学校のPRを行い、幅広い人材を確保する。	・高校生等への農業大学校への理解促進 ・学校説明会参加者の確保 ・平成29年度入学生の確保	〈方　策〉 ・高校訪問の実施 ・ホームページでの情報発信 ・本校における学校説明会の実施 ・高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介 ・高校生に向けた学生のブログ作成	＜経過＞ ・普通高校を含め、県内すべての高校や関係機関を訪問し学生募集の周知を図った。 ・ホームページに学生募集要項や学校説明会開催等の情報を随時掲載した。 ・学校説明会を5回開催した。(6/18、7/30、8/19、9/10、10/29) ・高校及び民間進路情報会社主催の進路相談会に11回参加し、高校生に対し学校紹介した。 ・学生がブログ「やまなし農大の学生日記」を随時更新し、キャンパスライフ等の情報発信を行った。	4	〇農業大学校への志願者を増やすため、増加傾向にある農業生産法人からの雇用ニーズ等もアピールしながら、マスコミや電子媒体をより一層活用するとともに、関係機関との連携を強化し幅広く発信していく。	・最近の高校生は、農業生産法人に対して企業の農業参入をイメージしがちであるが、果樹農家が規模拡大した法人など、多様な形態があるので、進路の選択肢について視野を広く持てるような働きかけが望まれる。
				〈指　標〉 ・次年度入学志願者数 養成科30人、専攻科3人 ・高等学校などへの訪問回数 延べ100回 ・新聞、同窓会だより、HPなどでの入学者募集の周知回数 延べ35回 ・学校説明会参加者数 延べ100人 ・学生のブログ作成回数 30回	＜実績＞ ・次年度入学志願者数　養成科32人（推薦19人、前期8人、後期5人） 専攻科5人（前期5人） ・高等学校や関係機関への訪問回数　延べ139回 ・新聞、広報誌、HP、ラジオ、テレビ等での学生募集の周知回数　32回 ・学校説明会参加者数　延べ121人 ・学生のブログ作成回数　31回	(4) (4) (4) (4) (4)		
2	農業系高校との教育交流の推進	農業系高校と農業大学校との連携による専門教育を推進するとともに、教員や学生の交流を図る。	・農業系高校との連携強化	〈方　策〉 ・連携推進会議、連絡会議の開催 ・本校職員による高校生に対する授業の実施 ・プロジェクト発表での相互交流 ・教職員の交流	＜経過＞ ・連携推進会議（4月、2月）と連絡会議（4月、1月）を開催し、事業計画等の検討を行った。 ・農業系3校の高校生に5月から1月にかけて実習等を行った。また、教職員に対する技術交流を実施した。 ・相互のプロジェクト発表会に学生・生徒が参加するとともに、代表者が発表を行った。 ・農業系高校教員とともに農業生産法人の視察、意見交換を行った。	4	〇教育交流に関する協定に基づき、高校生に対する授業や学生交流を行うとともに、進学や就農への意識が高められるよう新たな内容について検討していく。 〇引き続き、高校教員との技術交流や情報共有を図ることで、効率的・効果的な農業教育の実践に努めるとともに、円滑な進路指導につなげていく。	・中間年齢層の高校教員が少なくなってきているなかで、生徒だけでなく若手教員の技術取得の場としても活用されているので、引き続き連携交流を深めていってほしい。
				〈指　標〉 ・本校職員の高校生に対する授業 10回 ・農業系高校生の本校での実習 3校 ・教職員の合同研修 1回 ・プロジェクト発表会への高校職員・生徒の参加 20人 ・教育交流アンケートで本校に興味を持った生徒の割合 70%	＜実績＞ ・農業系3校の高校生に対する授業　14回 ・農業系高校生徒の農大での実習　3校 ・農業系高校教員との合同研修　1回 ・プロジェクト発表会への高校職員・生徒参加　31人 ・興味を持った学生の割合　64%	(4) (4) (4) (4) (4)		

3	実践教育の充実と学生の技能・知識の向上	実践的な教育を進め、専門学校として特色ある学校づくりを推進する。また、学生の技能・知識の向上を図り、進路決定に向け支援を充実する。	・教育内容の充実 ・実践能力の向上 ・課題解決能力の向上 ・技術・知識の向上 ・進路指導の充実	〈方　策〉 ・農場実習や先進農家派遣実習等の実施 ・プロジェクト研究やビジネスプランの実施 ・企業ガイダンスの実施、就職セミナー等への参加指導、農業に参入した企業の協議会との連携 ・有機農業公開講座の実施、６次産業化に向けた農産物加工の講義・実習の実施 ・農業基礎技能競技会の実施、農業技術検定等資格取得に向けた特別講義の開催 ・青年農業給付金事業を活用した就農定着に向けた支援 ・県内大学との連携による特別講義の実施	＜経過＞ ・校内農場での実習に加え、養成科2年は先進農業派遣研修を年間通して週1日（計35日）を行い、農業生産の実践的な研修を行った。養成科1年は流通販売研修（5日間）を行い、流通現場の実際を学んだ。 ・プロジェクト発表会を12月に開催し、学習成果を発表した。また、4課題を関東大会に選出した。 ・農業生産法人やハローワークと連携した就職セミナーを5回実施するとともに、労働局や民間が行うセミナーへの参加を促した。また、北杜市農業企業コンソーシアムとの情報交換を行った。 ・有機農業特別講座を公開講座として2回実施するとともに、外部専門家による農産物加工の講義と実習を20回実施した。 ・基礎的実践能力の向上に向け、農業基礎技能競技会を2回開催するとともに、各種資格取得に向けた特別講座を7回行った。 ・青年就農給付金について担い手・農地対策室と連携して制度の周知を図るとともに、就農計画の作成指導等を行った。 ・専攻科学生が山梨大学小曲農場とワイン科学研究センターの視察を行い、職員から醸造用ブドウの栽培や加工についての指導を受けた。また、山梨学院大学職員によるマーケティングの講義と商品化・販売の演習を行った。	4	○就農率の向上に向けて、先進農家による特別講義や指導農業士等との意見交換などにより就農意欲の一層の喚起に努めていく。 ○雇用就農が増えてきているため、ハローワークや農業生産法人等と連携し、学生の適性に応じた進路指導を行っていく。 ○プロジェクト研究については、学生によって取り組み状況にばらつきがあるため、2年生の補助等を通した意識付けや計画作成時の指導強化など、1年生の時点からの取り組みを徹底する。 ○県内大学との連携による人材育成に向け、講義や研修の実施について山梨大学及び山梨学院大学と引き続き連携を図っていく。	・非農家の学生の割合が高まる中で、生産法人等への就職希望者が増えているが、進路指導に加え、生産法人からのニーズを幅広く把握して、教育内容にも反映していく必要がある。 ・自営就農が少ないが、各種の支援制度も活用しながら、自ら農業にチャレンジしていこうという夢をもった学生を育てていくことも大切ではないか。 ・農大生の自営就農についてはタイムラグがあり、以前から即就農は少なかったが、卒業後の就農状況について実態把握をしておく必要がある。
				〈指　標〉 ・学生の就農率（自営＋雇用就農）45% ・学生の進路内定率 100% ・プロジェクト研究等の発表会におけるA評価 80% ・先進農業派遣研修受入れ農家の学生に対する「非常によい」評価割合 70% ・有機農業への関心が高まった学生の割合 80% ・免許・資格の平均取得数 6	＜実績＞ ・学生の就農率　43%（自営1人＋雇用就農11人）/28人 ・学生の進路内定率　96% ・プロジェクト研究のA評価　45% ・先進農業派遣研修受入れ農家の学生に対する「非常に良い」評価 技能：54%、態度：58% ・有機農業への関心が高まった学生の割合　97% ・免許や資格の取得数　平均5．0	(4) (4) (2) (4) (4) (4)		

4	就農希望者に対する円滑な就業・定着の推進	実践的な農業体験の場の提供と、関係機関との連携による即戦力となる人材を育成し、就業定着を進める。	・ニーズに応じた就農研修の充実 ・離転職者の農業分野への就業支援 ・就農研修の充実による就農定着の促進	〈方　策〉 ・就農フェアや就農相談会等への参加 ・就農トレーニング塾〔農業体験研修（平日１日、週末２日）、週末農業塾（モモ、ブドウ、野菜、有機農業）〕の実施 ・職業訓練農業科〔9カ月（果樹・野菜・有機農業）、6カ月（野菜・有機農業）〕の開設 ・職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた農業振興公社、農務事務所担当者との情報交換会の実施	〈経　過〉 ・新・農業人フェア（東京）に3回、県内の新規就農相談会に3回参加し、研修制度のPRを行った。この他、移住セミナーにも参加し就農研修をPRした。 ・就農トレーニング塾については、有機農業コースの開設4年目にあたり、講師との綿密な事前打合せを行い、受講者の意向に沿った研修内容の充実を図った。 ・職業訓練農業科は、特別講義で有機農業や獣害対策の講義・実習を導入するなど、より実践的な内容として実施するとともに、今年度は市町村、雇用を希望する農業法人等と意見交換も行い、就業・就農に向けた取り組みの強化を図った。	4	〇訓練修了後（2～3月）の栽培管理等について修得希望があり、栽培管理をビデオで収録したが、視聴してみると映像や音声が解りにくいため、別の方法等を検討する。 〇有機農業での就業希望者に対し、平成28年度より職業農業訓練科に有機農業コースを開設した。今後は地元の有機農業実践農家とも一層の連携を図る。 〇就業率を上げるため県関係機関や市町村、農業法人との連携による相談会を開催した。今後も更に就業・就農に向けた取り組みを進める。	・職業訓練農業科は農業の担い手育成において成果を上げているが、法人等への就職を促進するため、訓練終了後にさらに技術の積み上げを行うプロセスとしての雇用就農も推進してほしい。
				（指　標） ・職業訓練農業科訓練生の農業分野への就業率と、研修継続率の合計で ８０％ ・県内外の就農相談会の出席者数 延べ１５０名 ・就農トレーニング塾の受講者数 ７０名 ・研修受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 ８割	〈実　績〉 ・職業訓練農業科修了者就業率（農業分野）:　７１％（9カ月ｺｰｽ　75％、6カ月ｺｰｽ　63％） ・県内外就農相談会出席者数171人(県外5回、県内3回） ・就農トレーニング塾受講者数　　７６人 〔農業体験研修受講者数：1日体験（10回、21人）、2日体験（4回、18人）受講者計39人／週末農業塾数：もも ｺｰｽ（5～12月、10人）、ぶどうｺｰｽ（5～12月、12人）、野菜ｺｰｽ（5～10月、7人）、有機農業ｺｰｽ（5～11月、8人）受講者計37人〕 ・アンケート結果におけるおおむね満足以上の割合　８６．４％(　51/59) （長期ｺｰｽ　90％、短期ｺｰｽ78.9％）	(4) (4) (4) (4)		
5	農業経営の発展に向けた研修の充実	農業経営者の経営能力の向上と農業者の農業機械の基本操作の習得、安全利用に関する知識の習得を図る。	・経営能力の向上のための研修の実施 ・各種農業機械研修の実施	（方　策） ・農業者を対象とした農業経営研修（経営マネジメント研修、農業マーケティング研修）の実施 ・農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修（トラクター単体、小型バックホー研修）の実施	〈経　過〉 ・農業経営研修は、経営ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修を10～11月に3回、農業ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ研修を11～1月に4回開催した。 ・農業機械研修は、ﾄﾗｸﾀｰ単体研修を7、10月の2回、ﾄﾗｸﾀｰけん引研修を11月に1回、小型ﾊﾞｯｸﾎｰ研修は8、10、11、12月の4回、トラクター作業機研修を11月に1回、農業機械安全利用・整備基礎研修を12月に1回、合計９回実施した。	3	〇農業経営研修については、同様の講演会や研修会などが開催されていることなどから、「農業経営塾」の導入を含め、研修の方法や内容等について検討を行う。 〇バックホー研修は、JAが主催して行う地域もあり、農大での受講希望者数は減少傾向が見られることから、今後実施方法等の検討を行う。 〇本年度より機械研修については受講料を徴収しているが、振込事務の関係で募集締切が以前より早くなっているので、募集期間の周知を徹底する。	・農業経営研修については、各県で取り組みを推進することとしている「農業経営塾」の導入も見据えながら、民間企業・団体等との連携も含めて検討願いたい。
				（指　標） ・農業経営研修の受講者数 ６０人 ・農業経営研修の受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 ８割 ・農業機械研修受講者数 １５０名	〈実　績〉 ・農業経営研修受講者：３５人 （経営ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修：15人受講、農業ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ研修：20人受講） ・アンケート結果におけるおおむね満足以上の割合：８６％（経営ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修98％、農業ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ研修85％） ・農業機械研修受講者：１３５人 （ﾄﾗｸﾀｰ単体研修：27人、ﾄﾗｸﾀｰけん引研修：11人、小型ﾊﾞｯｸﾎｰ研修：69人、トラクター作業機研修：13人、農業機械整備研修：15人）	(2) (4) (4)		